

2018年度上期決算説明会 質疑応答集
(10/30 日経茅場町カンファレンスルーム 15:30～)

◆ 通期の売上高の予想を23億円下方修正したが、どの分野の影響が大きいのか？

- 通信:18/1Qでの底打ちを予想も、2Qが2番底となり、5億円程度のマイナス。当初から見込んでいたNTTのレガシーシステムの生産終了に加え、昨年好調であったFTTH向けが市場飽和により、データセンタ向けのメンテナンス商品が在庫調整により、想定以上に落ち込んだ
- 車載:当初80億円を見込んでいたが、数量は伸びたものの、品種構成および個別取引レートの影響等により65億円程度の見込み
- FA :年間40億円の水準で進んでいたが、下期は2割減のイメージ

◆ 車載事業の状況について(個別取引レート、品種構成、競争激化への対応)

- 個別取引レートは、ドルに対するパーツ高が4月頃からパーツ安に反転し、現在はフェアといえる水準にある。今後はダウン要素にはならない
- 車載カメラの品種構成において、低価格品の割合が増えている。低価格品であっても利益率は確保できるよう、全自動生産ラインやグローバル製造再編で合理化を図る
- 車載カメラ市場は拡大が予測される魅力的な市場であり、競争は激しくなっている。楽観視できる状況では当然ないが、弱気になる必要はなく、コスト競争力・供給力強化・高品質を守り続け、2020年の車載事業100億円突破を目指す

◆ 車載コネクタの全自動ラインの本格稼働およびベトナム生産について

- 全自動ラインの設備搬入は4～5月に行ったが、良品率が低い状態が続いた。10月からは、狙っていたほとんどの品種が製造できるようになっており、合理化効果がでてくる
- ベトナム生産は、自社での工場建設は行わず、委託生産から開始する。19年度からスタートする予定

- ◆ 当初の設備投資計画 11 億円に変更はないか？
 - 予定していた安曇野工場での厚生棟の完成が来年度にずれる。他の投資はほぼ変わらない。今期は 8 億円程度になる見通し
- ◆ 中期経営計画の 250 億円突破のために、来年度期待している部分は？
 - FA 分野に期待している。ロボットなどの省人化のニーズは手堅く、足元は厳しいものの伸びていくと考えている。8K 放送向けや車載のセンシングカメラ向けも期待しているが、実際に売上が出始めるのは 2020 年以降と予想している

以上